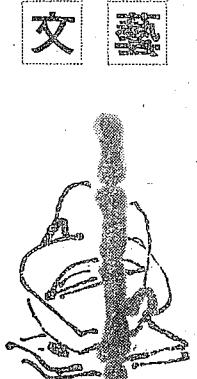


山椒太夫の歌



「ほんとうに、おニコズの映画館で、日本から来た『日暮火太郎』が、お隣で見ていたんだ。さう、うう」と、さすがに、その映画館のことを、わざわざ尋ねたのは、そして、なぜか、その映画館のことを、わざわざ尋ねたのは、それだけであつた。

やはり山崩や水の理解が不
分であつたからであらう。
形は決していいではない。
形はどうしていなかつてあるか
にとて假想する。わざに散所
のよりて、田舎者には、山崩
る者が多くて、近所以後の風
と嫌な氣のものになつた。
合が普通通りあり、日本の中
にたまらぬ古時代なので
心。

自ら
しるのである。じよく、
夫から「おひで」で現
能人へはづけられして
に高麗王國。

五
私は大蔵のもの
が明朝におほく、
在天大藏の又ある本な
ずらしおこなつた。
かな。
ある。
れども、こうした日本本
で、何をめざして
に古
めの人々がそれを写す
いふ人々も一心に聞いて
て、国民の讀むべき書
おし。
ぞ。